

投稿の手引き

I. 投稿の要件

1. 本会誌は日本矯正歯科学会の機関誌（和文誌は Clinical and Investigative Orthodontics (Japanese Edition) [略誌名：Clin Invest Orthod (Jpn Ed)], 英文誌は Clinical and Investigative Orthodontics [Clin Invest Orthod]) で、和文誌を年2回、3、9月、英文誌を年4回、3、6、9、12月に発行し、歯科矯正学および関連分野の論文等を掲載するものとする。
2. 和文誌に投稿する場合は、投稿要領および本投稿の手引きを、英文誌に投稿する場合は「Guide for Authors」を参照すること。
3. 和文誌への投稿は本学会会員に限る。ただし編集委員会が認めた場合はその限りではない。非会員が含まれる場合は、氏名、所属および論文作成における役割について必ず表紙に記入すること。
4. 投稿論文は他誌に未発表のものに限る。本誌への掲載を受理された論文を、日本語または他の言語を用いて、同じ形と内容で他誌に発表する場合には、本誌編集委員会の同意を必要とする。
5. 代表著者が共著者全員に確認した上で、利益相反事項届出書（本誌綴込みのもの）を事務局に提出すること。また、利益相反がある場合はその詳細を、ない場合はその旨を、原稿中（文献の前）に記載すること。
6. 論文は、できるだけ簡潔に記述されたものとし、表題は50字以内とし、対訳英文をつける、キーワードは5語以内とする。
7. 論文は、平仮名、常用漢字、現代仮名遣いを用い、“である”調で書く。投稿はWeb投稿システムにより投稿する（URL：<https://www1.i-product.biz/jos/>）。
8. 投稿原稿は内容・体裁が整い、ただちに印刷できるものでなければならない。とくに論文受理後の内容の修正、変更は許されない。
9. ヒトを対象とする場合は「ヘルシンキ宣言」（付録参照）を遵守し、その精神に基づいて「倫理的に行われたこと」、「患者あるいは被験者との間にインフォームドコンセントがかわされたこと」、および「倫理審査委員会の承認を得たこと」を投稿論文に明記する。投稿にあたり、被験者全員の同意文書あるいは倫理委員会審査結果通知の写しを添付する。また、動物を対象とする場合は「動物実験に関する所属研究機関の指針」に基づいて倫理的に行われた旨と「動物実験に関する委員会の承認を得たこと」を投稿論文に明記する。
10. 著者数は6人以内が望ましい。

II. 投稿の手続き

1. 原稿の送付は日本矯正歯科学会編集委員長宛とし、投稿は、次のURLのWeb投稿システムにより投稿する。どうしてもWeb投稿できない場合は編集事務局に郵便またはE-mailで送付する。
Web投稿URL：<https://www1.i-product.biz/jos/>
郵送先：170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9 駒込TSビル501（一財）口腔保健協会内
公益社団法人 日本矯正歯科学会編集事務局
E-mail：owj@kokuhoken.or.jp
2. 原稿送付の際に、誓約書および利益相反事項届出書（本誌綴込みのもの）に必要事項を記入の上、原稿に添付する。
3. 原稿は、表紙、和文抄録、Abstract（英文抄録）、本文、文献、脚注などのテキストデータはひとつのファイルとし、表および図の電子的データは別ファイルとする。誓約書および利益相反事項届出書も別ファイルとする。ファイル名は必ず半角英数字を使用する。漢字や全角文字、スペースは使用できない。
4. 投稿にあたって原稿（表および図を含む）のコピー控えを手元に保存しておくこと。
5. 編集事務局のもとに原稿が到着し原稿内容に不足がないことを確認した日付をもって受付日とし、著者に受け付け通知を出す。投稿要領および本投稿の手引きに当てはまらないものについては修正を求め、それが完了してから受付ける。
6. 和文誌はオンラインシステムで随時受け付けた投稿論文について、編集委員会で論文内容を審議し、必要に応じ編集委員会が委嘱した2名以上の査読者に見解を諮問した上で、その採否および掲載巻号を決定する。受

理論文は論文種別および受付された日付け順に掲載する。掲載にあたっては受付日と受理日を印刷する。

III. 表紙の体裁

1. 原稿には表紙を付け、その上段より論文表題（副題は行をかえる）、著者名、著者所属機関名、論文表題の英訳、著者名のローマ字表記（姓は大文字）、所属機関名の英訳、キーワード、主任または指導者氏名および職名、受付・受理年月日（日付空白）、別刷請求のための連絡先、別刷希望部数、ランニングタイトル、利益相反の有無の順に記載する（記載例1）。
2. 著者所属機関名は大学の講座・教室名、研究所名および病院・医院名とし、省略することなく公式のものを用いる。共著の場合、その所属機関を区別したいときは、筆頭著者と所属を異にする共著者名の右肩および所属機関名の前に上付きのアラビア数字を付ける。協力者などの記載は本文末尾に謝辞として書く。
3. キーワードは5語以内とする。日本語でも英語でもよい（例：上顎前突、成長、cephalometrics, skeletal class IIIなど）が、読者の文献検索に役立つよう論文内容を表す用語を選択すること。
4. ランニングタイトルは本誌奇数ページ、上の欄外に印刷されるもので、40字以内とする。短い論文表題はそのまま印刷できるが、字数の多い表題では表題を簡略にしたものを印刷する。

記載例1

〇〇〇に関する形態学的研究

——××による評価——（副題は行をかえる）

1行あける

阿部太郎¹，木村次郎²，松本三郎¹

¹〇〇大学歯学部歯科矯正学講座

²〇〇大学歯学部口腔外科学教室

1行あける

Morphological study of 〇〇〇

——Evaluation by ×××——

1行あける

ABE Taro¹, KIMURA Jiro² and MATSMOTO Saburo¹

¹Department of Orthodontics, Faculty of Dentistry, 〇〇 University

²Department of Oral Surgery, Faculty of Dentistry, 〇〇 University

1行あける

キーワード：〇〇〇，×××，□□□，△△△（5語以内）

10行あける

主任（または指導）：△△△△教授 20××年 月 日受付（日付空白）

20××年 月 日受理（日付空白）

1行あける

連絡先：阿部太郎

〇〇大学歯学部歯科矯正学講座

住所

E-mail（掲載希望者）

1行あける

別刷希望部数：〇〇部

10行あける

ランニングタイトル：〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇（40字以内）

1行あける

利益相反：著者全員利益相反なし（利益相反がある場合は詳細を記載すること）

IV. 原著

原著論文は、新規性があり、客観的な結論が得られ、歯科矯正学の発展に寄与するものであり、「緒言」、「材

料ならびに方法」, 「結果」, 「考察」, 「文献」など, 論文としての形式が整っているものとする。

和文抄録および Abstract (英文抄録)

1. 本文の前に 650 字以内の和文抄録および 250 語以内の Abstract (英文抄録) をつける。Abstract (英文抄録) はダブルスペースで作成する。
2. 和文抄録および Abstract (英文抄録) の内容は, 本文を読まなくても論文の概要が理解できるよう, 研究の目的, 方法および結果の主なものを簡潔に要約する。

本 文

1. 本文はページを改めて書き起こし, 平仮名, 現代仮名遣い, 常用漢字, 数字はアラビア数字を用いて明瞭に書く。「第 1, 第一」, 「2 次, 二次」, などはアラビア数字, 漢数字のどちらを用いても差し支えないが, 歯種を示す場合 (第一小白歯, 第二大白歯など) は漢数字を用いる。学術用語はそれぞれの学会学術用語委員会選定のものを用い, 和訳しにくい用語以外は日本語で表記する。
2. 英語はすべて原綴りとし, 人名, 固有名詞, 略語, とくに慣用されているものは大文字で始める。また普通名詞は文頭にあるときのみ大文字で始めるが, 文中では大文字を使用しない。句読点, コンマ, ピリオド, 括弧は 1 字と換算する。
3. 計量単位は原則として付録「国際単位系 (SI) の単位記号」に準じる。単位記号 (ローマン体で印刷する) には省略のピリオドおよび複数の s は付けない。
4. 動植物の名称は原則として片仮名書きにする。生物の学名 (欧語) は 2 名式命名法によりイタリック体で記し, たびたび使用する場合は再出以後属名を略字とし, 例えば *Porphyromonas gingivalis* を *P. gingivalis* とし, ても差し支えない。
5. 化合物名は日本化学会の定めた化合物名日本語表記の原則に準拠して一般名で書き, 商品名では表記しない。
6. 略語, 略号には国際的に慣用されているものを用いる。略号として通常使用されるラテン語は, 必要な場合はピリオドを付け, イタリック体とする (例: *et al.*, *i. e.*, *in vivo*)。
7. 本文中に文献を引用するときは, 著者の姓 (名前不要) をあげ, その右肩に文献番号を付ける。著者名を明記する必要のないときは, 省略して番号だけでよい (記載例 2)。

記載例 2

- 1) 山田ら (1957)¹³⁾ も示すごとく…
 - 2) …とされているが^{2, 4)},
 - 3) 太田¹⁰⁻¹⁴⁾ は…と報告している。(文献が 3 つ以上連続する場合の表し方)
8. 論文の中で, 計測機器や薬品などの名称を記す場合は, その機器などの一般的な名称を記し, 続けて () 内にその製品名や型式, 製造者名, 製造都市名を順に記すこと (記載例 3)。

記載例 3

パーソナルコンピュータ (PC-9801VX, 日本電気 (株), 東京)

9. 原著の場合は, 本文に「緒言」, 「材料ならびに方法」, 「結果 (または成績)」, 「考察」などの順序で見出しを付けて, 論文内容をできるだけ簡単に記述する。それぞれの見出し (ゴシック体) は各章の冒頭, 行間中央に記載する (記載例 4)。
10. 原著本文のそれぞれの項目の内容は, おおよそ次のようなものとする。
 - 1) 緒 言
研究の目的, それを取り上げた動機およびその背景となるこれまでの研究との関連を記述する。
 - 2) 材料ならびに方法
実験または観察に使用した材料および方法について記述する。とくに新しい方法についての考案があれば, 理解しやすいように説明すること。材料, 方法についての考察はここでは述べない。
 - 3) 結 果 (または成績)
表, 図および写真などを活用し, 本文では実験または観察によって得られた結果の主要点を述べ, 結果についての考察は行わない。
 - 4) 考 察
前章までに示されたものについての客観性を立証し, この研究で見出された事柄のもつ意義 (意見) を述べる。さらに, 他の関連論文で示された結果との関係を比較考察して, その評価を行う。
11. 謝辞, 学会発表, 研究費出所など特記事項があれば, 考察の末尾に付記する。

掲載予定誌名□西暦発行年□巻数（号数不要）を記した後，必ず〔掲載予定〕あるいは〔投稿中〕と付記すること（□内の記号は半角表記とする）。

13. 私信や特定会合で配布された資料など，公刊されておらず，一般に閲覧できないもの，およびインターネットのホームページは文献に加えない。
14. Web のみに公開されている文献や電子版が冊子体に先行して Web に掲載された論文は DOI 番号（Digital Object Identifier）が割り付けられていれば DOI 番号で引用ができる（記載例 5-7）。

記載例 5：

- 1) 藤田恒太郎. 人における歯数の異常. 口病誌 1958; 25: 97-106.
Tweed CH. Philosophy of orthodontic treatment. Am J Orthod 1945; 31: 74-103.
- 2) 榎 恵. 歯科矯正学. 第 2 版. 東京: 医歯薬出版, 1982: 62-65.
Graber TM. Orthodontics, principles and practice. 2nd ed. Philadelphia, London: WB Saunders, 1967: 119-121.
- 3) 須崎一郎. 伝達麻酔法. 山本五郎. 水木 孝編. 口腔治療学. 5 版. 東京: 小川書房, 1957: 24-40.
Tulley WF. Normal function of the mouth. In: Walter DP editor. Current orthodontics. Bristol: John Wright & Sons, 1966: 39-55.
- 4) 滝本和男. 矯正歯科 (歯科技工全書, 第〇巻). 第 1 回改訂. 東京: 医歯薬出版, 1967: 73-79.
Scot JH. Dento-facial development and growth (Pergamon series on dentistry, vol. 6), Oxford: Pergamon, 1967: 138-174.
- 5) 武井光三. 口蓋裂の発生学的研究. 解剖誌 1927; 2: 16-20.21) から引用
Tacker GC. Calcification and phosphatase. J Pathol 1934; 48: 205-233. Cited from Eckman DC. Histopathological studies on the periodontal structures. J Am Dent Assoc 1957; 44: 111-134.
- 6) プロフィット・ウィリアム R. プロフィットの現代歯科矯正学 (作田 守監修, 高田健治訳). 第 1 版. 東京: クインテッセンス出版, 1989: 228-244.
- 7) Fukui K, Sugiyama MR, Kaminishi MR, et al. Characteristics of mandibular advancement surgery dependent on lower facial height differences in study of skeletal Class II patients with long-term stability. Orthodontic Waves 2007; doi: 10.1016/j.odw.2007.01.001.

脚 注

1. 脚注の原稿は一括して文献の後に記載する。冒頭に「第〇ページ脚注」とする。
2. 脚注の原稿ページ数も原稿総ページ数に加える。

表および図

1. 表および図は，1 枚ずつ作成し，表または図ごとに通し番号（表 1，表 2，…）（図 1，図 2，…）を付ける。この際，写真は図として通算する。表および図の 1 枚ずつに表または図番号を必ず記す。著者名は記載しない。
2. 表および図の本文挿入箇所は本文中に記載する。その配列に関してとくに希望のあるときは図示されたい。
3. 表および図にはタイトル（ゴシック体）または説明文を付ける。タイトルにはピリオドを付けない。和文を原則とする。本文を読まなくても内容を理解できる程度のものが望ましい。表のタイトルは表の上に記すが，それ以外の説明は表の下に記す。図のタイトルおよび説明文は図の下に記してもよい。この場合でもタイトルおよび説明文を別ページとしてまとめて本文の文献の後に「図説」として記載する。
4. 表は，できればパーソナルコンピュータまたはワードプロセッサを用いて作成する。計量単位を明記すること。表は組版で印刷するので，その印刷寸法を指定する必要はない。表の大きさは刷り上がり 1 ページ以内（横幅 16 cm，縦長 24 cm 以内）とし，1 ページに収まらない表は受け付けない。
5. 図（グラフ，線画）はドロー系のコンピュータソフトで作成する。座標の数字や単位の記入を忘れないよう注意する。原図のトレース，数字や文字などの写真植字を希望するときは「要トレース」，「要写植」と付記する。その実費（版下代）は著者負担とする。
6. 写真は電子的に作成して投稿する。ただし電子データを作成できない場合は光沢画紙に焼付け，鮮明なものを 2 部，編集事務局まで郵送する。その場合，印刷原寸大に作成し，写真用の糊を用いて，A4 判用紙に貼り付け，上下（天地）がわかるようにする。ただし写真に上下（天地）がわかるような数字や文字が記入してあればその必要はない。なお，組写真の場合もその 1 組を 1 枚の用紙に貼るよう心掛けられたい。カラー印刷を希望する写真などは「カラー」と指定する。カラー印刷に要する費用は著者負担とする。

7. 本文とは別のページに写真などを図版プレートとして掲載する場合、その説明文は原稿の最後「付図説明」として一括して掲げる。
8. 必要なら図、写真の印刷寸法を図のページ余白部に「左右 6.5 cm」、「左右 10 cm」というように記載する(2段横組みの1段の幅は 7.5 cm である)。
9. 顔写真には「目隠し」を施して、その人物が特定できないよう配慮されたい。
10. 図、写真は、製版後は部分的な訂正(例えば、図中の数字や文字の訂正)ができず、改めて製版し直さなければならないので、原図作成時に十分注意されたい。著者の不注意による図版製作費はその実費を請求する。

<Web 投稿にあたって>

- ・ファイル名は必ず半角英数字にすること。漢字や全角文字は使用できない。
- ・ファイルの種類は MS Office のファイル (Word, Powerpoint, Excel) や TIFF, EPS 形式のイメージファイル, PDF ファイルなど。JPEG, GIF の場合は解像度が低く印刷に使用できない場合があるため、そのときには高解像度のファイルを後日提出願う場合がある。

注意：MS Office のファイルに他のソフトで作ったファイルを貼り付ける場合は、解像度に留意すること。TIFF 形式でハーフトーンの場合は 300 dpi 以上、ハーフトーンと線画が混在する場合は 500 dpi 以上、線画の場合は 1000 dpi 以上とする。また、MS Office のファイルに図を貼り付けた後にサイズを縮小すると解像度を減らすことがあるので注意すること。

活字指定

1. 通常著者が活字を指定する必要はない。MS Office などの文書作成ソフトで作成した場合、イタリック、ボールド、上付き文字、小キャピタル、下付き文字などはそのまま使用できる。ただし、本誌全体の体裁から著者の意向に沿えないことがある。
2. ラテン語の文字はイタリック体とする。in vivo など。
3. ギリシャ文字や数学記号など文書作成ソフトで表記できない文字は [アルファ], [シグマ] などと、その文字の読みをかぎカッコでくくる。
4. 本文、表、図などは原稿全体を通して、印刷すべきもの以外の指定や注意書きはすべて投稿の際の表紙に記述する。

V. 総説

1. 総説は、依頼原稿のみとし、ある特定のテーマに関する知見を多面的に広く概観したもの、もしくは解説し考察したものとする。
2. 抄録、文献、脚注、表および図、活字指定は「原著」を参照すること。

VI. 臨床

1. 臨床論文は、症例に対する臨床的知見等を考察したものとする。
2. 抄録、文献、脚注、表および図、活字指定は「原著」を参照すること。

VII. 症例報告

1. 会員に対して、本誌に症例を発表する機会を従来にも増して与えることを目的とする。原則として緊密で安定した咬合が得られた症例を掲載の対象とする。
2. 「症例報告」は、「日本矯正歯科学会認定医制度施行細則 第9条」に定めた「学会が認めた刊行物での臨床報告」とみなす。
3. 報告対象とする症例は、動的治療終了後2年以上経過し、初診時、動的治療終了時、最終資料採得時の資料を有するものとする。

4. 報告対象とする症例は、少なくとも動的治療（第2期治療）を筆頭著者が主体として行ったものでなければならない。
5. 症例報告は、雑誌掲載時の刷り上がりで5～7ページ程度とする。
6. 査読は他の論文と同様の条件で行う。
7. 雑誌掲載に対する患者の同意書を添付する。
8. 症例報告には、以下の項目を記載する。
 - 1) タイトル
 - 2) 著者名
 - 3) 所属
 - 4) キーワード 5個以内
 - 5) 和文抄録 300字以内、Abstract（英文抄録）120語以内
 - 6) はじめに 400～600字以内、症例選択の理由を記す。
 - 7) 初診時所見 800字以内、主訴および初診時の所見を記す。
 - 8) 診断および治療経過 1,200字以内、「初診時所見」から抽出される症例の特徴、問題点をまとめ、診断・治療経過および治療結果を記す。
 - 9) 考察 1,600字以内、治療経過および治療結果に基づいた考察を記す。
 - 10) 参考文献 10編程度以内とする。
 - 11) 表および図
必要な表および図の例を以下に示す（症例によって、特に必要を認める場合は追加する）。
 - ・顔面写真（正貌・側貌）：初診時、動的治療終了時、最終資料採得時
 - ・口腔内写真または石膏模型写真（正面、左側面、右側面、上顎咬合面観、下顎咬合面観）：初診時、動的治療終了時、最終資料採得時
 - ・パノラマエックス線写真
 - ・側面頭部エックス線規格写真
 - ・側面頭部エックス線規格写真分析表：（計測項目）SNA, SNB, ANB, FMIA, U1-SN など

VIII. クリニカルヒント

1. クリニカルヒントは、歯科矯正治療に関連した新しい方法等の紹介、稀有なる臨床上の所見等のトピックス、あるいは歯科矯正学または関連分野における技術紹介などを対象とする。
2. 原稿は本文、参考文献等を含めて5,000字以内とし、300字以内の和文抄録および120語以内のAbstract（英文抄録）をつける。表および図は1点を400字と換算する。
3. 文献、脚注、表および図、活字指定は「IV. 原著、臨床」を参照すること。

IX. その他（解説、委員会報告等）

1. 原著、臨床、症例報告、総説、クリニカルヒント以外で、ガイドライン等の解説や本学会の活動報告等を編集委員会から依頼したものとする。
2. 抄録、文献、脚注、表および図、活字指定は「原著」を参照すること。

X. 校 正

1. 校正は初校および再校を著者校正とし、三校以後は編集委員会で行う。
2. 初校および再校ともPDFファイルとして著者宛にメールで送付する。必ず指定期日までに校正を終えて、校正刷を返送すること。
3. 初校時に限り表および図の本文中での配置がえ、活字体の変更を認めるが、文章や内容の変更、追加、削除や表および図の改変、組み替えは認められない。
4. 校正刷返送の遅れや、校正時の大幅な原稿修正、図の改版などがあって、編集業務に支障をきたし本誌発行が遅延するおそれがあるときは、たとえ受理論文として印刷中であっても編集委員会の判断で掲載を次号回

しとすることがある。

5. 投稿者で正誤表の掲載を希望する場合は、次号発行月の3か月前までに、編集委員会宛に正誤表原稿を送付されたい。

XI. 論文掲載料

1. 論文掲載料（著者負担分）については、本誌投稿要領の定める算定基準によって、掲載号発行後、別刷りの作製・発送に要した費用とともに著者宛請求するので、所定の期日までに納入されたい。
2. 著者の不注意による図版の再製作および組み替えに対しては、その実費を請求する。

XII. 別刷

1. 別刷希望部数を表紙末尾に明記されたい。
2. 別刷の作成（別刷表紙の組・刷・用紙代および製本代）・発送に要した費用は全額著者負担とする。

備考：本誌に掲載された論文を二次的著作物として利用する場合（機関リポジトリおよび著者個人の Web サイトへの公開）には、必ず編集事務局に連絡し、編集委員長の許可を得ること。